

落語

錦川馬場
芝居町
品川文楽

江戸散歩地図

一之席から九之席まで九つのコース

- 一之席 浅草、吉原、向島を歩く
- 二之席 業平、亀戸、蔵前を歩く
- 三之席 両国、深川、佃島を歩く
- 四之席 日本橋、人形町を歩く
- 五之席 上野、湯島、神田を歩く
- 六之席 根岸、谷中、根津を歩く
- 七之席 丸の内、山王、麻布を歩く
- 八之席 増上寺、芝を歩く
- 九之席 泉岳寺、品川を歩く



目次

まえがき……………2	五多庵
落語江戸散歩地図……………4	上野、湯島、神田を歩く……………91
本書で紹介している噺の索引……………8	案内人◎古今亭文箱
一多庵	上野を歩く……………94
浅草、吉原、向島を歩く……………9	湯島を歩く……………96
案内人◎健田山馬也	神田を歩く……………100
浅草、吉原、向島巡り地図……………10	落語名作選『初天神』……………104
浅草を歩く……………12	落語名作選『素人鯉』……………106
吉原を歩く……………20	そのほかの噺……………108
向島を歩く……………22	落語と江戸ワルメ其多五鰻……………112
落語名作選『文元結』……………24	六多庵
落語名作選『紺屋高尾』……………26	根岸、谷中、根津を歩く……………113
そのほかの噺……………28	案内人◎古今亭文箱
落語と江戸ワルメ其多二天麩羅……………34	根岸、谷中、根津巡り地図……………114
二多庵	根岸を歩く……………116
業平、亀戸、蔵前を歩く……………35	谷中を歩く……………120
案内人◎健田山馬也	根津を歩く……………122
業平、亀戸、蔵前巡り地図……………36	落語名作選『茶の湯』……………124
業平を歩く……………38	そのほかの噺……………126
亀戸を歩く……………40	落語と江戸ワルメ其多六豆腐(豆腐)……………128
蔵前を歩く……………42	〇多庵
落語名作選『中村仲蔵』……………46	丸の内、山王、麻布を歩く……………129
そのほかの噺……………48	案内人◎三遊亭金朝
落語と江戸ワルメ其多二餅菓子……………50	丸の内、山王、麻布巡り地図……………130
三多庵	丸の内を歩く……………132
両国、深川、佃島を歩く……………51	山王を歩く……………134
案内人◎健田山馬也	麻布を歩く……………136
両国、深川、佃島巡り地図……………52	落語名作選『時蕎麦』……………138
柳橋、両国を歩く……………54	そのほかの噺……………140
深川を歩く……………58	落語と江戸ワルメ其多蕎麦……………142
佃島を歩く……………60	ハ多庵
落語名作選『船徳』……………64	増上寺、芝を歩く……………143
落語名作選『化かや』……………66	案内人◎三遊亭金朝
そのほかの噺……………68	増上寺、芝巡り地図……………144
落語と江戸ワルメ其多三猪鍋……………72	増上寺を歩く……………146
四多庵	芝を歩く……………146
日本橋、人形町を歩く……………73	落語名作選『芝餅』……………152
案内人◎古今亭文箱	落語名作選『首提灯』……………154
日本橋、人形町巡り地図……………74	そのほかの噺……………156
日本橋を歩く……………76	九多庵
人形町を歩く……………80	泉岳寺、品川を歩く……………157
茅場町を歩く……………82	案内人◎三遊亭金朝
落語名作選『百山』……………84	泉岳寺、品川巡り地図……………158
落語名作選『心眼』……………86	泉岳寺を歩く……………160
そのほかの噺……………88	高輪を歩く……………162
落語と江戸ワルメ其多四寿司……………90	品川を歩く……………164
	落語名作選『品山心中』……………168
	そのほかの噺……………170
	落語と江戸ワルメ其多八団子……………172
	散歩の後は寄席で落語を……………173
	江戸散歩案内人紹介……………174
	参考文献……………175



浅草、吉原、向島巡り

歩く時間：約2時間10分

行程：約6.5km

浅草駅

歩く時間と行程：10分 0.5km

浅草寺

台東区浅草二丁目3-1

歩く時間と行程：30分 1.5km

吉原大門交差点

台東区土手通り×五十間道

歩く時間と行程：7分 0.4km

吉原神社

台東区千束三丁目20-2

歩く時間と行程：30分 1.5km

待乳山聖天

台東区浅草七丁目4-1

歩く時間と行程：10分 0.5km

隅田公園

墨田区向島一、二、五丁目など

歩く時間と行程：20分 1km

長命寺

墨田区向島五丁目4-4

歩く時間と行程：23分 1.3km

とうきょうスカイツリー駅



案内人・隅田川馬場

浅草、吉原、向島を歩く



宝蔵門、五重塔は第二次世界大戦時に本堂とともに焼失、昭和39年再建されたが、五重塔の位置は本堂の東南から西南に移された

『鷺とり』で五重塔の相輪にしがみついた男を演じる馬石師匠。「五重塔の位置が今とは逆なので、噺の中でも逆になってますね」



十年以上前にやめたそうだ。
浅草寺一番の撮影ポイント
宝蔵門、五重塔
仲見世の商店街が途切れたところにある宝蔵門。雷門や五重塔と同じく、天慶5年(942年)に平公雅によって建てられた。当初は仁王を納めていたので仁王門と呼ばれた。
昭和20年(1945年)、第二次世界

大戦の空襲で本堂とともに消失し、昭和39年(1964年)に再建。浅草寺の宝物の収蔵庫になっているため、宝蔵門の名が付いた。門の裏側(本堂側)には、「大わらじ」が掛けられている。門の左手(西南)に位置する五重塔は、最初、現在とは反対に本堂の東南に建てられた。何度かの火災の後、慶安元年(1648年)に徳川三代将軍家光が再建したが、これも第二次世界大戦時に消失し、昭和48年(1973年)に本堂の西南に建てら

れた。
五重塔が登場する噺としては『鷺とり』(29ページ参照)がある。不忍池で鷺捕りをした男が、捕まえた鷺を帯に差していると、その鷺が一斉に飛び立ったので、自分も空中に舞い上がり、夢中で棒にしがみついたら五重塔の相輪(上に突き出た部分)だった、という噺だ。
浅草寺の五重塔は、上野の寛永寺、芝の増上寺、谷中の天王寺とともに「江戸の四塔」として庶民に親しまれた。



桃山時代風朱塗りの外観、桜など四季折々の装飾により、風情たっぷりの仲見世。正面に見えるのが宝蔵門



延宝3年(1675年)創業、仲見世でも最も歴史ある「金龍山浅草餅本舗」。浅草餅が名物だったが、現在は「あげまんぢゅう」を販売。写真は、十四代目になる吉住泰男さん



和傘専門店の「西島商店」(16ページ参照)。踊り用の舞傘、祭り傘など多彩にそろえている

三百年の歴史を持つ 商店街 仲見世

浅草寺への参拝客が増えるにつれて、浅草寺境内の掃除の賦役を課せられていた近くの人々に対し、境内や参道上への出店営業の特権が与えられた。これが仲見世の始まりで、元禄・享保年間(17世紀後半から18世紀前半)のころといわれている。

浅草仲見世商店街によると、「江戸時代には、伝法院から仁王門(宝蔵門)寄りの店を役店と呼び、二十軒の水茶屋が並び、雷門寄りには平店と呼び、玩具、菓子、土産品などを売っており、次第に店も増えて、日本でも一番、形の整った門前町へ発展していきました」とのこと。
現在は雷門から約二五〇メートルの間に、東側に五十四店、西側に三十五店の計八十九店の店舗がある。

仲見世が登場する噺としては『付き馬』(28ページ参照)が挙げられる。吉原で金を持たずに遊んだ男が、「馬」と呼ばれる、借金を取り立てる遊郭の若い衆を連れ回す噺だ。
噺の中には仲見世名物の人形焼や紅梅焼も出てくる。人形焼は人形(町)(81ページ参照)で修業した職人が、五重塔など浅草名物の型を作って人気を得たという。紅梅焼は、浅草寺境内にあった紅梅の下で売られた、梅の花の形をした煎餅のこと。現在も看板に掲げる店があるが、

『文七元結』【吉原、吾妻橋】

娘が身を売ろうとまでして借りた五十両を、吾妻橋から身投げしようとする文七にくれてしまおう長兵衛。三遊亭圓朝(注2)による人情噺(注3)の代表作。

本所達磨横町に住む、左官の長兵衛。腕はいいが博打好き、五十両もの借金をこさえて、師走というのに年も越せない。今日も細川屋敷(注4)の開帳で身ぐるみ剥がれ、法被を借りて帰ってきた。

すると女房のお兼が、十七になる娘、お久がいないと言う。「夫婦喧嘩が絶えないから愛想尽かしたに違いない」とお兼が泣いているところへ、吉原の大見世、佐野槌から使いの者がきた。昨夜からお久を預かっているで来てほしい、と女将さんから言付かったという。

お兼の着物を無理やり脱がせて着た長兵衛、慌てて佐野槌に駆けつける



夜も賑わう現代の吾妻橋。江戸時代には身投げする者も多く、『佃祭』、『身投げ屋』など、多くの噺の中で身投げの話題が出てくる

と、女将さんの隣でお久が泣いている。女将さんによると、お久は長兵衛の借金を返して博打もやめさせようと、自ら吉原に身を売りに来たという。こんないい子を持つて、腕もいいのに、なんで博打ばかりしているのかと意見した女将さん、長兵衛から、五十両あれば借金を返して仕事ができると聞いて、来年の大晦日まで五十両を貸すと切り出した。その日までお久は店に出さず、お花やお茶を習わせるとい

店に出す。お客を取らせるよ。わかったから」
長兵衛「へえ。わかりやした。必ず大晦日までに返しやす」
女将「お礼を言っていきなよ」
長兵衛「女将さん、本当にありがとうございます」
女将「私にじゃない、この子に言うんだよ。言わないなら、それ返して」
長兵衛「いや、言います……。お久、いろいろとそういうことで……」
女将「はつきり言ってごらん！」
長兵衛「お久、ありがとう……。すまねえ、勘弁してくんねえ。博打やめて一生懸命仕事して、一日も早く迎えに来るから辛抱してくれ」
五十両の金を懐にして本所に急ぐ長兵衛、振り返り振り返りやって来た吾妻橋。今しも橋から身投げしようとしている若い男がいる。抱き留めて事情を聞くと、男は日本橋・近江屋の手代、文七。小梅の水戸様(注5)に掛け取りに行つて預かった五十両を、すられてしまったという。金がなければ死ぬしかないと言う文七に、長兵衛は迷いに迷つた揚げ句、疑われるのは

悔しいからと、いきさつを話し、五十両をくれてやることに。

長兵衛「お久は女郎になったって死にやあしねえ。おめえがどうしても死ぬってえから、くれてやるんだ。その代わり、吉原に身を沈めたお久が悪い病にかからねえようにと、それだけ祈ってくれ」

文七「そんないわれのあるお金、よけい頂くわけにはまいりません」
長兵衛「じれつてえ野郎だな。なんでもいから持つていきやがれ！」

文七が五十両を持つて帰ってきたことで驚いたのが近江屋。水戸の殿様と碁を打っていた文七が、うっかり碁盤の下に五十両を置き忘れ、屋敷から届いたのだという。

事情を聞いた近江屋が佐野槌に連絡を取つて長兵衛のこを聞き出し、翌日、文七とともに長兵衛の長屋に行くと、夫婦喧嘩の真最中。割つて入った近江屋が事情を話して厚く礼を述べ、五十両を返し、身寄りのない文七の親代わりになつてほしいと

頼む。

そこへ、近江屋が身請けしたお久が、美しく着飾り、駕籠に乗つて帰ってくる。うれし涙にくれる親子



あつ、お放しください！
死ななきやならない訳が……！
お、おい、ちよつと待ちな！

三人。お久と文七はのちに夫婦になり、麴町に元結屋の店を開いて繁盛したという「文七元結」由来の一席。

(注1)元結(もとゆい、もつとじ)とは、チョンマゲなどの髪をまとめて結ぶ紐(ひも)のこと。和紙を細く折りたたんだり、撚(よ)ったりしたものを指した。
(注2)天保10年、湯島切通町(きりどおしちやう)に生まれ、幕末から明治にかけて活躍した落語家。人情噺、怪談噺など数多くの名作を作り、後世の落語界に大きな影響を与えた。
(注3)落語の演目のジャンルの一つ。親子や夫婦などの情愛を描き、笑いだけではなく涙や感動も誘う噺が多い。ジャンルとしては、ほかに滑稽噺、怪談噺などがある。
(注4)細川利重(とししげ)を初代藩主とする肥後新田藩の屋敷のこと。現在のアサヒビール本社ビルや墨田区役所あたりにあった。
(注5)向島の隅田公園は、かつて、小梅屋敷と呼ばれる水戸藩の下屋敷(しもやしき)だった。



日本橋の橋中央には麒麟(きりん)像がある。翼は、飛躍する首都東京を象徴しているという

江戸開府以来の 日本の中心

日本橋

花のお江戸の中心、日本橋。日本橋は、江戸幕府が開かれた慶長8年(1603年)、江戸城の外濠と隅田川を結ぶ橋として、日本橋川に架けられたのが最初。翌年には五街道(東海道、日光街道、奥州街道、中山道、甲州街道)の起点となり、日本の中心地となった。現在、橋の真ん中に、日本の道路網の始点であることを示す日本国道路元標がある。

日本橋を起点に、室町、人形町、茅場町と、頭に日本橋と名の付く町を、古今亭文菊師匠に案内してもらおう。

にした落語はないが、やはりさまざまな噺の中にたびたび登場する。

日本橋魚河岸

江戸の台所は築地にあらず

橋の南側の東京メトロ日本橋駅から、中央通りの東側を歩いて日本橋を渡ると、橋の北詰めすぐ右手に「日本橋魚市場発祥の地」の石碑がある。「日本橋龍宮城の港なり」と川柳に詠まれたそう、碑の横には乙姫像も建てられている。

徳川家康は摂津国佃村から漁民を佃島に呼び寄せ、幕府の膳所に魚介を供するために漁業を営ませた。やがて漁民たちは、その残りの鮮魚を日本橋で舟板の上に並べて販売するようになり、それが日本橋魚河岸(魚市場)の始まりといわれている。落語『百川』(84ページ参照)にも、料亭で飲み食いする「魚河岸の若い衆」が登場する。いかにも河岸の者らしい、威勢のいい様子が噺からもうかがえる。そして陸路の中心であるとともに、



五街道の起点となった日本橋。親柱には獅子の像が飾られている



日本橋北詰め東側の通称「乙姫広場」には、乙姫像とともに「日本橋魚市場発祥の地」の石碑がある

水路を利用して各地から食料や資材が日本橋に集められ、江戸市中に運び込まれたので、「この界限は、さまざまな物資の集散地点として賑わった。大小の間屋や小売店が軒を連ね、川沿いに大きな蔵もたくさんあったよ

うだ。日本橋は江戸時代の大火のたびに燃え落ち、何度も架け替えられたが、日本橋魚河岸はそのまま残った。しかし大正12年(1923年)の関東大震災により築地に移転し、その歴史に終止符を打つことになる。

日本橋を背にして、中央通りを北に向かおう。中央通りはかつて日本橋通りといわれ、通り沿いには大店の軒を連ねていた。日本橋と日本橋通りの賑わいは、絵巻「熙代勝覧」に詳

しく描かれている。熙代勝覧の本物はドイツにあるが、三越前駅の地下コンコースに複製が飾られていて、誰でも見ることができ

下..文化2年(1805年)ごろの日本橋を描いた「熙代勝覧」(ベルリン国立アジア美術館蔵)。1990年代にドイツで発見されたが、作者は不明。神田今川橋から日本橋まで、現在の中央通りの賑わいが克明に描かれている。写真は「部分」。「熙代勝覧天」とあるので、「地」「人」もあるのではないかとされているが、発見されていない。左..三越前駅地下コンコースの「熙代勝覧」の複製。「反対側を描いたものがあるといわれていますが、発見されていませんね」と文菊師匠





丸の内、山王、麻布巡り
 歩く時間: 約2時間30分
 行程: 約7km

- 東京駅丸の内口**
 歩く時間と行程: 14分 0.7km
- 桔梗門**
 千代田区千代田
 歩く時間と行程: 20分 1km
- 桜田門**
 千代田区皇居外苑1
 歩く時間と行程: 30分 1.5km
- 日枝神社**
 千代田区永田町二丁目10-5
 歩く時間と行程: 24分 1.2km
- 虎ノ門交差点**
 港区外堀通り×外堀通り
 歩く時間と行程: 16分 0.8km
- 愛宕神社**
 港区愛宕一丁目5-3
 歩く時間と行程: 30分 1.5km
- 飯倉片町交差点**
 港区外苑東通り×都道415号
 歩く時間と行程: 12分 0.6km
- 麻布十番駅**

